

【高等学校用】

令和4年度学校評価 計画

学校名	佐賀県立鹿島高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>・「授業の工夫・改善」については、すべて成果指標を達成したが、学力の向上につながったという実感は今一歩である。今年度は、「生徒の学習に対する主体的取組の確立」についての取り組みを深化させ、卒業後の進路実現につなげていきたい。</p> <p>・「心の教育」について、自己有用感、自己肯定感を高めることについては概ね達成できた。自分自身に関してこれらを実感することは、生き方への自信や他人に対する優しさ等につながる大きな要素であるため、なお一層高める方策を検討していきたい。また、「いじめ」については生徒の意識も高く、早期発見や早期対応については概ね適切に行われており、軽微な段階でのいじめを多く認知することができた。今後も早期発見、早期対応を継続していく。</p> <p>・「業務効率化と時間外勤務時間の削減」については、前年より大幅に改善したものの成果指標を達成できなかった。これまでの業務を3つの観点(①基本的には学校以外が担うべき業務、②学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務、③教師の業務だが、負担軽減が可能な業務)に分けてさらなる業務改善を進めて行く必要がある。</p> <p>・「一つの学校であるという意識の深化」は、2つの学舎が近接するという本校の特徴を強みに変えたり、業務の効率化を進めるために重要であり、さらに推進していきたい。</p> <p>・本校の状況にフィットしたコミュニティ・スクールのあり方を模索し、地域との連携を進めることで魅力と活力ある学校づくりを進めていきたい。</p>

2 学校教育目標	他者を尊重し、高い志と豊かな心をもって逞しく未来を切り拓く力を育てる。
----------	-------------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>(1) 授業・進路指導の充実によって、確かな学力を育み、生徒の進路保障を図る。</p> <p>(2) 教育活動全体を通して豊かな心を育み、生徒の人的成長を図る。</p> <p>(3) 学校体育・学校保健等の充実によって、健やかな体を育み、生徒の逞しい成長を図る。</p> <p>(4) 不断の業務改善・意識改革によって、教職員のワークライフバランスを実現する。</p> <p>(5) コミュニティ・スクールの導入によって学校の魅力を高め、志願者増を図る。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	○授業の充実と確かな学力の育成	○授業の進捗や内容が適切であると思う生徒を85%以上、授業をとおして学力が向上したと思う生徒を85%以上、主体的に学ぶことができていると思う生徒を90%以上にする。 ○新学習指導要領の本格実施に伴い、1年生の指導計画及び評価規準を6月までに、次年度の指導計画を12月までに完成させる。 ○ICTを活用した学習支援の実施。	・各教科2件以上の公開授業を実施し、事後に必ず授業研究会を実施する。 ・授業評価アンケートを実施し、生徒の学習状況を把握し、授業改善を行う。 ・指導計画及び評価に関する職員研修(4月)、教科会議(適宜)、教務委員会(3回以上)を行う。また、年間を通して継続して検討・研究を進める。 ・1名でも欠席等の生徒がある場合には、オンライン授業を確実に実施する。 ・ICTを利用して積極的に自宅学習の支援を行う。	教務部
	◎社会に貢献する志を持つ生徒の育成 ○進路指導の充実と生徒の進路保障	○進路実現をとおして社会に貢献したいと考える生徒を90%以上にする。 ○平均偏差値50以上の教科・科目数を昨年度以上にする。 ○国公立大学志願者の合格者を70%以上にする。 ○就職希望者の就職率を100%にする。	・進路講演会を各学年1回(3年生6月、2年生2月、1年生12月)実施する。 ・進路講演会等で社会貢献の視点から各自の進路希望を考える機会を設定する。 ・日本語リーディングリテラシーテストを導入し、思考力・読解力の変化を追跡する。 ・進路検討会を3年生4回(4月、6月、11月、1月)、1・2年生2回(5月、12月)実施し、生徒の状況や課題を共有する。 ・進路ガイダンス(6月、7月、3月)を実施して、進路意識を高める。 ・個人面談を充実させ、進路希望の把握や適切な指導・助言に努める。	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権感覚が高まったと思う生徒を80%以上にする。 ○自己有用感が高いと思う生徒を80%以上にする。 ○よりよい学校づくりにQ-Uを活用できる教員を90%以上にする。	・人権・同和教育に関する職員研修を6月に実施する。 ・人権・同和教育に関するHRを6月に、講演会を11月までに実施する。 ・5月末にQ-Uを実施して生徒の実態を把握し、特に満足感や学習意欲が低い生徒に対し、面談等で話を聞く。 ・Q-Uに不慣れな職員には、教育センター等の研修受講を推奨する。 ・ボランティア活動(花ボラ、有明海の清掃活動等)への参加を推奨する。	保健指導部 (教育相談) (特支教育co)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止基本計画にしたがって、組織的対応ができていると回答する職員を90%以上にする。 ○いじめについて相談しやすい環境が整っていると答える生徒を90%以上にする。	・いじめ防止基本計画及び対応手順について、5月までに職員に周知する。 ・いじめを覚知した場合には、速やかに対策委員会等により組織的対応を行い、再発防止等について職員会議または学年会等で情報共有する。 ・いじめに関するアンケート調査を年5回以上実施する。 ・気になる生徒への声かけの実施、相談しやすい環境作りを進める。 ・SOSの出し方に関する講演会を実施する(1学期)。 ・いじめや悩み等に関する相談窓口の周知を行う(3回)。	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と生活習慣の形成	○健康に食は大切であると思う生徒を98%以上にする。 ○規則正しい生活ができていると思う生徒を90%以上にする。	・望ましい食習慣や生活習慣に関する情報を保健だより等で3回以上提供する。 ・食習慣と生活習慣に関するアンケートを2回実施し、結果をもとに必要な指導を実施する。	保健指導部 (保健安全)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年休取得10日以上の職員を85%以上にする。	・業務効率化のための提案を3回(8月、12月、2月)募り、素早い改善を行う。 ・定時退勤推進日のあり方を検討し、定時退勤しやすい環境作りを進める。 ・「上限時間」を職員に目に見える場所に掲示する。 ・時間外在校時間が45h/月を超えた職員には「上限時間」に関する説明及び時間外在校時間削減のための面接を行う。 ・年休取得状況を2回(9月、11月)集約し、年休取得を呼びかける。	管理職

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	○コミュニティ・スクールの導入	○運営協議会を年度内に3回実施する。 ○各部会の会議を9月までに開催する。 ○外部委員による講演会を10月までに開催する。	・学校運営協議会のメンバー、組織、規約及び活動計画案を4月末までに作成する。 ・運営協議会委員と学校担当者との各部会での熟議 ・運営協議会委員による講演会実施	管理職
	★地域と協働した学校の魅力づくり	○主体的に鹿島市に関する探究学習に取り組めたと思う生徒を90%以上、そう思う職員を80%以上にする。 ○鹿島市でのフィールドワークを実施した生徒(2年生)を100%にする。 ○探究学習の成果発表会への地域の方の参加を実現する。	・地元を知り、その課題を自ら見つけて解決案を考えさせる一方、職員も適切な助言を行う。 ・成果発表会を設定し、プレゼンテーションに取り組ませる。 ・探究学習でテーマに即した場所を実際に訪れ、観察や調査を行いながら地域の方と交流をする。 ・成果発表会に地域の方を招待し、活動を知ってもらい、意見を聞く。	企画研修部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--